

●生産環境工学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、農業生産の場における土・水・施設・機械に関する技術を応用し、地域から地球規模まで考慮した環境保全に資する新たな農業生産技術とエコ・テクノロジーの開発を行うとともに、生産性向上のみでなく、環境・資源・エネルギーに配慮した計画・設計・施工・管理を行える倫理観を持った技術者を養成する。

2. 教育目標

生産環境工学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 「土と水」の機能と文化及び「農」の多面的意義を理解して、人類の生存と発展を支えることのできる者。
- (2) 地域から地球規模への環境保全を実現するための新しい試みを展開できる者。
- (3) 省資源及び省エネルギー技術などを導入して、自然と共生する循環型社会を創造できる者。

3. アドミッションポリシー

生産環境工学科は以下のような入学者を求めている。

- (1) 英語の基礎学力を有し、数学、物理、化学、生物のうち1つ以上の科目を受験科目として学んできた人。
- (2) ある問題についての現状や原因や対策について、限られた情報だけから判断することなく、関連領域から多面的に考えることができる人。
- (3) 数学と力学と情報技術について関心がある、または本学科が対象とする問題解決のために、それらを学ぶ意欲があり、自分から学習に臨むことができる人。また、現場への調査を厭わないなど、行動力ある態度が取れる人。
- (4) 積極的に自己をアピールでき、かつ他の人とのコミュニケーションを取れる人。
- (5) 学部在学中に、工学的な考え方や技術を身に付け、自分の将来計画を考えることのできる人。

4. カリキュラムポリシー

生産環境工学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 地域を人間の生活、自然及び生物生産の共存空間と捉え、土地や水や生物などの地域資源を生態系に配慮して有効利用・保全するための理論と技術に関連する科目。
- (2) 衛星画像データを含めた広域情報及び土中の水の動きや微気象の局所情報の両

面から、環境情報を収集、解析、評価し、それを生物生産に利用・応用するための科目。

- (3) 構造力学、土質力学、水理学、土木材料学を基礎とした、農業生産環境・生活環境に関わる基盤整備・維持管理についての科目。
- (4) 本学科が対象とする生産・加工・流通やそれらの環境に関わる機械システムを、エネルギー効率や環境負荷も考慮しながら、設計・開発・評価・活用するための科目。

5. ディプロマポリシー

生産環境工学科は以下の能力が身に付いている学生に対し、学位を授与する。

- (1) 自然科学に関する基礎知識と農業工学に関する専門知識を修得している。
- (2) 物事を工学的に考えるセンスを修得している。また、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任について考え、何をなすべきかを判断できる。
- (3) 食料、環境、資源、エネルギーなどの問題に関心を持ち、解決しようとする意欲と姿勢を修得している。
- (4) 情報技術及び日本語での論理的記述、口頭発表、討論等のコミュニケーション能力を修得している。